



認知症予防の 対策は

竹村 仁司 議員

早期に発見し
早期に医療につなぐこと

健康福祉部長

平成29年に厚生労働省が行った国民生活基礎調査では、介護が必要になった主な原因の1位は認知症。本市の今後の予算計上においても、「認知症予防対策」は、見過ごすことのできない課題では。

健康福祉部長 認知症については、身近な問題と認識している。認知症予防に取り組みとともに、認知症を早期に発見し、早期に医療につなぐこと、そして認知症の人ができるだけ住みなれたところで生活を送れるようにするための生活支援、

認知症を理解し、地域で支える人の力が要だ。地方創生推進交付金を利用して行う健康なまちづくり事業は、3年間という計画になっている。認知症予防に対してこの活動量計を使った運動習慣を身につける支援が有効ではないかと考える。交付金終了後の考え方は。

健康福祉部長 31年度までを補助期間とする地方創生推進交付金を活用している。30年度の事業結果及び31年度の事業経過を踏まえて、判断していきたい。

このプロジェクトは、東日本大震災の発生による悲劇から始まった。石巻市の幼稚園を出発した送迎バスは、押し寄せる津波に飲み込まれた。乗っていたのは、佐藤愛梨ちゃん（当時6歳の女の子）を含む5人の子供たち。愛梨ちゃんの遺体が発見された場所を訪れると、一帯に白い花フラスギクが寄り添うように咲いていた。花を平仮名の「あいりちゃん」と

アイリンブループロジェクトの取り組みは

市内全小中学校でこのプロジェクトを表現させたいと熱望するが、見解は。

教育長 教育委員会としては、市内の校長会においてこのプロジェクトの趣旨を伝え、花壇スペースや苗や肥料の調達等、環境を整えば、積極的に活動に取り組むように進め、既に3校が取り組んでいる。さらに多くの学校が参加を希望しているということなので、できるだけ広めていきたい。



▲愛知県の認知症チェックリストのチラシ